

図書館forum

総合図書館のリニューアルに寄せて……………	中川 英之	1
医学図書館の課題……………	松木 孝澄	3
図書館法と博物館法……………	宇野 文男	4
■福井大学附属図書館所蔵の古典籍(3)		
ろうせいたいいん しんもつべんらん 隴西大隠『進物便覧』一江戸の進物マニュアル本一 ……………	膽吹 覚	7
■私の推薦書		
漢詩を読むことと作ること……………	澤崎 久和	9
教養教育と読書……………	栗山 勝	11
「さなぎ」としての過渡期、そこに新しい未来の息吹が ……………	寺田 聡	15
電子ジャーナルの今後……………	水上 満雄	18
■お知らせ		
総合図書館が6月にリニューアルオープンします		21
総合図書館リニューアルオープン記念展示 「郷土の歌人 山川登美子」展		22

総合図書館のリニューアルに寄せて

附属図書館長 中 川 英 之

なかがわ・ひでゆき

総合図書館（文京キャンパス）の耐震改修・増築が急ピッチで進められています。基盤強度の見直しが行われたため工事開始が大幅に遅れ、3月中旬の竣工に向けて連日工事関係者が忙しく立ち働いているのを毎日眺めながら夢を膨らましています。書庫の部分は増築することになっていますが、40万冊以上の蔵書の重量に耐える頑丈な建物ができます。昨秋来、32mのパイル打ち込みや土質改良作業から一層ごとのコンクリート流し込み作業を事務棟3階のオフィスから「監視」してきましたが、やっと3層目が完成しそうな状況になり外形ができがりつつあります。

医学図書館の閲覧室狭隘性については本誌5号でも触れましたが、テュートリアル室と共に増築計画の検討が進められてきており、平成21年度の早い時期に着工されるものと期待しています。閲覧室の拡大を中心とした増築ですが、医学資料室の設置やパソコンの利用環境整備も計画されており、利用環境の大幅な改善が図られることになります。

昨年10月～12月に学内評価委員会による附属図書館を対象とした評価が行われました。これは平成19年度に行った図書館の自己点検・評価を基にして行われたものです。総合評価として、「大学の共通基盤及び地域の知の拠点として出来る限りの努力をしている」として評価される一方、「ハードとソフト両面での一層の充実」が求められています。附属図書館としては、蔵書及びその検索システムの充実、電子図

書館への指向、学術研究の基盤としての電子ジャーナルやデータ・ベースの維持、利用環境の改善など、可能な努力はしてきておりますが、常に人的、財政的な制約の壁に行き着くという状況を繰り返してきています。総合図書館及び医学図書館の改修・増築の結果ハード面での問題はかなり改善されることになります。特に総合図書館では、1階フロアには、サービス部門が整備され、学生が集うラウンジ、グループ学習室、マルチメディアコーナー及び展示コーナーが設置されて、知と情報を求める利用者が気軽に集える空間が実現されます。他方、2,3階では、静寂で落ち着いた環境で調査・学習に専念できる閲覧空間が整備され、本来の図書館としての機能が確保されます。ソフト面の充実に関しても、「何時でも何処からでも学術情報にアクセスできる図書館の実現」を基本コンセプトとしてシステムの充実を図っていくことになっています。評価委員会からは何点かの改善事項も指摘されています。要点を列挙すると、①医学図書館の充実、②大学構成員で問題点を共有、③電子ジャーナルの充実、④科学的な収蔵と管理、⑤総合情報処理センターとの連携、⑥運営委員会等の機能点検、の6点です。これらに対する図書館の意見・対応策をとりまとめているのですが、ここでは長くなるので省略します。

本学附属図書館と県立図書館との相互協力協定に基づいて平成19年10月に立ち上げられた福井県内図書館総合目録（横断検索）システムが、この1年余りの間に大きく拡大されていま

す。現在では、県内の全公立図書館と8高等教育機関（大学、短大、高専）の図書館が、この横断検索システムで繋がっており、600万冊を超える蔵書を検索することができ、一定の制限はありますが流通システムを利用して各図書館の窓口で借本できるようになっています。県立図書館が中心になって組織したのですが、県と大学等が協力して県民に貢献する施策に福井大学が率先して取り組んだということになります。また、同じく平成19年10月に一般公開を始めた福井大学機関リポジトリに関しても大きな進展がありました。昨年春から福井県地域共同リポジトリを構築する準備を進めてきましたが、昨12月の時点で県下の全ての高等教育機関（9機関）で共同リポジトリを立ち上げるという合意が得られました。現在その立ち上げを計っている状態です。オープン・アクセスの学術情報ネットが形成されることになり、今後、学術論文だけではなく各大学の様々な情報を掲載していくと共に全国の学術情報ネットにリンクを張っていくことを計画しています。ユーザー・フレンドリーな検索システムの構築にはまだしばらく時間がかかりますが、掲載アイテムの拡充や利用者の拡大を図っていくことにより、学術情報の流通に大きな改革をもたらす壮大な計画になります。現在、福井大学リポジトリでの論文等掲載数は1,000件余りですが、大学の総合データ・ベースとの連携を図ることにより、よりシステムティックに掲載アイテムの拡充ができるようにしていきたいと考えています。

懸案の電子ジャーナルについては、値上げと円高為替が拮抗して安定した状態ですが油断はできない状況でもあります。平成20年の契約金額は63,617千円であり、1アクセス当たりの平均単価は748円です。単価1,000円を超え

ているタイトルもあり、購入計画については引き続き調査・検討していく必要があります。国立大学図書館協会でも各出版社との価格交渉を継続していますが、最大手のエルゼビアは値上げ幅削減に応ずる気配は全くない様子です。因みに、エルゼビア（フリーダム）の平成20年の契約は41,023千円であり、他のタイトルを大きく上回っていますが、利用単価は567円であり、アクセス件数も72,388件であるため、これを止めるということは論外です。また、利用数の少ない論文誌を外すという方策も価格削減には結びつきません。上述の学内評価では「電子ジャーナルの充実」が挙げられていますが、そのためには学術情報基盤整備と研究推進をリンクした方策を準備していく必要があります。尚、図書館間相互貸借の申込はWebでもできるようになっていますが、これを使った文献複写サービスの利用は減少傾向にあります。費用は1文献当たり約400円ですが、研究者にとってはやはり電子ジャーナルの方が便利で望ましいようです。

6月には、リニューアルされた総合図書館でのサービスが開始されます。当分の間は蔵書の搬入作業などが続き、利用者には不便な所も多々あるものと思われますが、皆さんの協力を得て「夢図書館」の実現に向けて努力していきます。また、総合図書館リニューアルオープン記念事業として、「郷土の歌人 山川登美子」展を本館所蔵の「登美子自筆ノート」及び「寄せ書き扇面」の展示を中心にして開催する予定です。福井県小浜市で育った明治の歌人の生涯を紹介するための準備が進められています。この展示を「青春を謳歌し、熱情を持てる今このときを生きる若い人たちに伝えるメッセージにしたい」という企画担当者の言葉を以てこの小文を閉じます。

医学図書館の課題

医学図書館長 松 木 孝 澄

まつき・たかすみ

医学図書館（松岡キャンパス）は、昭和53年10月に福井医科大学創設準備室内に設置された福井医科大学図書館準備室がその始まりで、昭和55年4月からの第1期生102名の入学に合わせて教育実習棟内に仮の図書室を作って業務を開始しました。現在の図書館の建物は昭和57年3月に竣工して、同年4月に開館式典で福田一郎画伯の「ノアの箱舟」の壁画の寄贈を受け、当初より平日夜間・土曜日午後の時間外開館業務を実施していました。その後昭和58年よりオンライン情報検索を開始し、CDROM版の医学関連各種データベースを順次導入するなど、図書館業務への電子計算機導入と共に電子図書館への歩みを進めることになりました。また、平成4年に自動入退館システムの導入と学生への適用拡大を経て、平成8年4月より24時間、365日夜間・休日の無人開館を、当時の中川原儀三館長の裁断のもとに全国的にも先駆けて実施し、今日に至っています。

さて、平成20年度は総合図書館（文京キャンパス）の耐震改修を期に増改築がおこなわれ、平成21年度には医学図書館の増築が予定されています。松岡キャンパスは現図書館竣工時の学生定員予定総数600名から、大学院医学研究科博士課程定員総数120名、平成9年4月開設の医学部看護学科定員総数260名、大学院医学研究科修士課程定員総数24名へと404名の学生定員増があり、平成21年度からは医学部医学科に更に1学年10名、総数60名の定員増が決まり、合計1,064名の定員総数となり、昭和

53年当時と比較すると1.77倍の学生増への対応が求められていることになります。

最近では、仲間がいる図書館などで医学書を複数広げて一人用の机で静かに国家試験や定期試験の勉強をすることを好む学生や、数人の仲間によるグループ学習で互いに刺激しあいながら勉学の効率を上げている学生が多く、チュートリアル教育の推進などを通じて医学科・看護学科の教員もグループ学習を勧めていることから、医学部もそれらの学生への対応が求められています。また、館内でも持ち込みPCを自由に使える環境や有線LANあるいは無線LANで情報収集や情報検索などもできる環境を求める利用者が増えてきており、学生の授業や試験にネットサーバーにある画像を使う教員が増えてくれば、これらの要求に対する対応も必要になります。

これは附属図書館全体に共通の課題ともなりえますが、今後の医学図書館の課題として、無人開館などの伝統は維持しつつ、1)教育・研究・診療などの業務・社会貢献などの福井大学としての活動の基盤（ライフライン）そのものである図書館機能の運営に必要な財務基盤の整備・確立、2)学術と文化の「情報収集・発信拠点」としてのより使いやすい電子図書館機能の充実を今後も目指してゆく必要があります。

1)については、図書館運営費の大部分を占める電子ジャーナルや電子データベース購入費用の金額が、寡占化した出版社の経営戦略と図書館利用者の要求との狭間で、増加の一途を

辿っており、個別の図書館の自助努力では有効な対応ができなくなっています。アンケートなどで常に利用者の動向を探りつつ、それらの資料を基に大学としての活動の基盤となる図書資料費に、どこからどの程度までの費用を定期的に支出するかを、ある程度長期的な視点で決めておくことは、他大学の例を見ても必要ではないかと思われます。

2)に関して、書籍などハード面の整備や備品・物品の購入については、従来通り利用者の希望を十分反映していれば良いと思われます。しかし、医学図書館は学習のための箱物としてだけでなく、学術と文化の「情報収集・発信拠点」でもあってほしいと希望しているものとしては、今後の増加が予想される福井大学で収集した画像データの教育・研究への利用ソフトの開発と画像データの公開が、リポジトリなどと並んで重要な情報発信の項目となり得ると考え

ます。したがって、これに必要なソフトの開発担当者あるいはソフト開発者と教員や学生との間の橋渡しができる専門家や、情報ネットワークの専門家が図書館にも求められることになると思います。その際には、図書館の耐震改修や増改築に伴い2年前より図書館に施設整備や経営管理に経験豊富な課長を迎えたように、広く人事の交流や附属図書館と情報処理センターとの機能的な融合も一つの選択肢となり得るかもしれません。

いつも変わらぬ「学習の場」の提供と、訪れるたびに「知の発見」のある図書館をめざして、これからも医学図書館は躍進を続けます。また、それぞれの専門分野の電子ジャーナルや電子データベースをより一層ご利用いただき、研究の推進に役立てていただくと共に、研究成果の発表などの学術・文化の発信に関わる情報も図書館にお寄せ下さい。

図書館法と博物館法

教育地域科学部教授 宇野 文 男

うの・ふみお

はじめに

最近、本学附属図書館をはじめ、福井県内の大学と県立図書館、県内市町立図書館との図書の相互貸借が実施されるようになったり、図書館での展示や講演会も以前にもまして開催される機会が多くなった。また博物館でもワークショップも含め参加体験型の要素を取り入れるなど、ここ数年のあいだにその機能や内容の変化とともに、ずいぶん多様化してきた。それで

は図書館と博物館は、どのような制度や目的で運営されているのか、専門の職員を中心に改めて考えてみることにする。

図書館法とは

法律を少しのぞいてみよう。図書館だったら思いつくのは1950（昭和25）年に制定された「図書館法」、博物館の場合は翌1951年の「博物館法」ではないだろうか。それらは、いずれも社会教育法（1949年施行）の精神に基づき、

その施設の設置や運営に関して必要な事項が定められているが、それぞれの定義というのは、つぎの通りである。

<図書館法>

第二条 この法律において「図書館」とは、図書、記録その他必要な資料を収集し、整理し、保有して、一般公衆の利用に供し、その教養、調査研究、レクリエーション等に資することを目的とする施設で、地方公共団体、日本赤十字社又は一般社団法人若しくは一般財団法人が設置するもの（学校に附属する図書館又は図書室を除く。）をいう。

<博物館法>

第二条 この法律において「博物館」とは、歴史、芸術、民俗、産業、自然科学等に関する資料を収集し、保管（育成を含む。以下同じ。）し、展示して教育的配慮の下に一般公衆の利用に供し、その教養、調査研究、レクリエーション等に資するために必要な事業を行い、あわせてこれらの資料に関する調査研究をすることを目的とする機関（社会教育法による公民館及び図書館法（昭和二十五年法律第百十八号）による図書館を除く。）のうち、地方公共団体、一般社団法人若しくは一般財団法人、宗教法人又は政令で定めるその他の法人が設置するもので次章の規定による登録を受けたものをいう。

これで見ると本学附属図書館は学校に附属するので「図書館法」に該当しない。そのためその法律には図書館に置かれる専門的職員、すなわち「司書」を置くとも記されているが、附属図書館に司書の業務をしているスタッフはいるが、就業規則上の職名としてはない。

また博物館法には「学芸員」を置くとして置いているが、国立の博物館は設置主体の点から博物館とはみなされていないので、学芸員はいないのである。具体的に国立民族学博物館は、もともと国立大学の共同利用機関として設置されて基本法は学校教育法であり、国立科学博物館は社会教育法、東京国立博物館や京都国立博物館等は文化財保護法などであり^②、いわゆる博物

館法の適用をうけないので、肩書は教授だったり研究員などとなっている。

要するに図書館法も博物館法も学校や国の機関などは除外されているのである。

大学の図書館

それでは大学の図書館はどのような法律に基づいているのか。具体的に調べていくと非常に混乱してくる。まず先の図書館法に学校とあるので「学校図書館法」をみると、「学校の教育課程の展開に寄与するとともに、児童又は生徒の健全な教養を育成すること」を目的に、学校とは小、中、高等学校だと定められている。第3条に専門的職務をつかさどる司書教諭を置くことも明記されている。

では大学は？。おおもとの「学校教育法」の施行規則によれば、「学校には…図書館又は図書室、その他の設備を設けなければならない。」ことのみ記載されている。「大学設置基準」の第38条には「図書等の資料及び図書館」について以下のように定められている。

第三十八条 大学は、学部の種類、規模等に応じ、図書、学術雑誌、視聴覚資料その他の教育研究上必要な資料を、図書館を中心に系統的に備えるものとする。

2 図書館は、前項の資料の収集、整理及び提供を行うほか、情報の処理及び提供のシステムを整備して学術情報の提供に努めるとともに、前項の資料の提供に関し、他の大学の図書館等との協力を努めるものとする。

3 図書館には、その機能を十分に発揮させるために必要な専門的職員その他の専任の職員を置くものとする。

4・5 （略）

また「大学図書館基準」の職員の項には、

(1) 大学図書館には、その使命の遂行と機能の発揮に必要なかつ十分な職員を適正に配置しなければならない。

(2) 大学図書館に課せられた高度の専門的業務を処理するためには、特に専門職員を配置することが必要である。専門職員には、原則として大学院において図書館・情報学等を専攻した者を充てなければならない。

(3) 専門職員、その他図書館の専門的業務に従事する職員に対しては、広く研修または再教育の機会とともに、その資格、能力、経験等にふさわしい処遇が与えられなければならない。

となっており、これにも司書の記載はない。

専門的職員をどう考えるか

したがって、このように見てくると大学図書館にふさわしい専門的職員や専門的職員とはどのような資質が求められるのだろうか。

かつて在職していた国立民族学博物館では、1974（昭和49）年の創設時からコンピュータの導入に取り組み、研究資料の一つである文献図書もコンピュータの利用による情報管理システムを開発し、1982年には目録カードを廃止した。その後ようやく一般の図書館においても情報化に取り組みはじめ、図書館業務や仕事内容は大きな変革をとげてきた。

現在耐震リニューアル工事中の総合図書館に今春新たに展示ホールが設けられる。その記念企画として本学所蔵資料も含め「郷土の歌人－

山川登美子」展として、5月下旬の公開をめざして展示計画中でその準備に関わっている。このような図書館で所蔵している資料をできるだけわかりやすく展示することになると、それに従事する職員も企画力、技術と経験が今以上に求められるのではないだろうか。

この景気の良くない昨今にあっては、従来にもまして効率優先や組織改革などが叫ばれ、そのような中で、大学の図書館も社会連携や地域貢献など新たな課題を抱えている。新しい図書館の建物に生まれ変わる機会に、多様化した図書館業務に対応するため、館内で働くスタッフの意識改革が望まれる。また長期的な視野のもと時代に即した幅広い運営のあり方をさらに追求し、独自性のある図書館活動がより一層行われることを期待している。

⑨ 国立科学博物館は、2001年4月に独立行政法人国立科学博物館に、また2001年4月に発足した独立行政法人国立博物館は、東京国立博物館、京都国立博物館、奈良国立博物館、九州国立博物館を運営していたが、2007年4月に独立行政法人文化財研究所と統合し、独立行政法人国立文化財機構になった。国立民族学博物館、国立歴史民俗博物館は2004年4月から他の三機関とともに大学共同利用機関法人人間文化研究機構の一員となっている。



福井大学附属図書館所蔵の古典籍(3)

 ろうせいだいじん しんもつべんらん
 隴西大隠 『進物便覧』

 しんもつ
 ー 江戸の進物マニュアル本 ー

留学生センター准教授 膽 吹 覚

いぶき・さとる

お中元にお歳暮、結婚祝いに出産祝い、暑気見舞いに病気見舞い。旅行に行けば、親しい人へ土産物を買って帰る。私たちの生活は1年を通じて、またその生涯を通して、さまざまな「進物（贈答品）」で彩られています。しかし、いざ誰かに何かを贈ろうとしても、何を贈ってよいやら思案に暮れることはよくあることです。それは江戸時代の人々もまた同じでした。そうした江戸時代の人々の「進物」に関するさまざまな悩みを解消すべく出版されたのが、この『進物便覧』です。刊行されたのは、江戸時代後期の文化8年（1811）。編著者は本書序文に隴西大隠と署名がありますが、この人物の姓名、経歴などは現在のところ不明です。ただ、『進物便覧』を読む限り、隴西大隠は上方（京・大坂周辺）に所縁の深い人物であったことが推測されます。

本館所蔵の『進物便覧』は1冊本。全101丁。半丁16行。縦7cm×横15.6cm、横長の懐中本（懐に入る大きさの本）。外題は「進物便覧 全」。刊記

は後表紙見返しに「文化八年未正月 大坂心斎橋北久宝寺町 書林 河内屋嘉七版」と記載されています。書入れや付箋はなく、保存状態も良好です。『進物便覧』は現在のところ、国立国会図書館、神戸大学附属図書館をはじめとして日本国内では13の図書館や機関で、その所蔵が確認されています。

『進物便覧』は隴西大隠の序文を巻頭に置き、その後「進物便覧目録」「音物大意」「諸祝儀齋もの部」「見舞物之部」「土産物之部」「目録認様」の順に掲載されています。「諸祝儀齋もの部」には「年賜」「上巳節句」「端午節句」などの年中行事をはじめ、「誕生之賀」「入学」「婚礼」「普請造作」といった人生の節目となる行事など、計29項目。「見舞物之部」は「暑気見舞」「寒気見舞」など計8項目。「土産物之部」は「京土産」「大坂土産」「江戸土産」など計15項目。「目録認様」は「太刀馬代結納書法」など計6項目。以上、計58項目にわたって挿絵を交え、注意点を簡潔に記したうえで、具体



(表紙)



(刊記)

的な贈答品名を挙げて説明しています。

その一例として、「年賜」の項目を見てみましょう。

年玉の贈物は随分手軽く、いかにも例年変らぬ目出度品々而嘉例とし、其土地に生ずる物、たとへば大坂の人より天王寺干蕪、墨、筆などを初、家業によれる品よろし。京より縄手元結、川ばたふしのこ、胸紐、絹糸などの類、惣而倍の低きしなよろし。必ず興有らんと異様なる変物、身分不相応の奢美なる品などは決して無用たるべし。ゆゑん墨、筆、半切紙、扇子、たばこ入、きせる、香ばし、毛ぬき、はな紙入、やうじ、やうじさし、懷中小道具、塩瀬ふくさ、酒器の類、香煎、茶筒、茶筌、煎茶道具、ねり箸、箸類、茶台、清水焼物
(以下、44 品省略)

ここにいう「年賜（年玉）」は、現代いうところのお年玉ではなく、年賀の進物のこと。「年賜」は贈り主の地元で生産している手軽な品がよい、と『進物便覧』はいいます。墨、筆、扇子など、ここに掲げられている品々は、すべて手軽な品ばかりです。また、挿絵は武家の年礼廻りを描いたもの。絵の右端、玄関前の二本の松の木に注連縄が渡されています。絵の中央部、玄関先には小机があって、そこに礼帳と硯が置かれています。年礼廻りの客は、ここに氏名を記して帰ります。小机の左に二枚の札のような物が落ちていますが、これは年礼に着た客が置いて行った名札（現在の名刺のようなもの）です。絵の左側、屋敷内では訪問客が主人に「年賜」を贈っ

ています。主客ともに上下姿。これが正装です。主人の右に見える三方は蓬萊といひます。こうした挿絵も、江戸時代の上方風俗を知る上で貴重な絵画史料です。

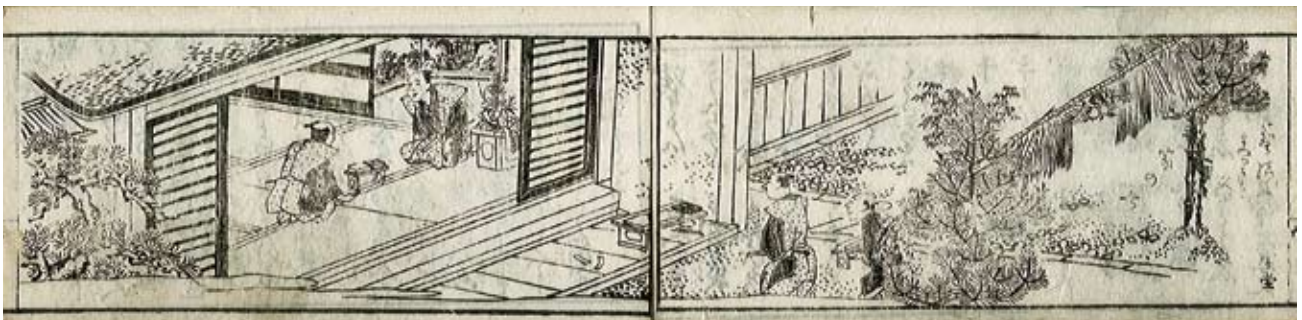
隴西大隠は進物の心得について、『進物便覧』の「音物大意」に、次のように説いています。

- 一、平素の互に贈物をするときは、随分手軽くするを旨とすべし。論語に曰、礼は奢んよりは寧儉せよと有て、事少に儉約すべし。
- 一、みやげものは土産にして、其土地の産する物を遠路持帰り贈るを専一とすべし。
- 一、人に物を贈れば、是非受るにいたる。よつて音物は深く心を配り用ふべし。

また、同書「進物心得之事」には、次のような一文も見えます。

- 一、婦人の許へ贈物をする時は、先方の用に立べき物を専一に考へ遣すべし。

『進物便覧』は江戸時代後期の進物に関するマニュアルを記した書物ですから、現在では日本文化史(風俗史)を研究する人でなければ見る機会は少ないかもしれません。しかし、そこに説かれている内容は、江戸時代の風俗を研究する人のみならず、すべての現代の人にとっても有益な助言となるはずです。『進物便覧』は『講座日本風俗史』(雄山閣出版)にその一部が翻刻されて掲載されていますが、その全文を読むためには、現在でも江戸時代に出版された板本にあたらなければなりません。



(6 丁裏・7 丁表)

私の推薦書

漢詩を読むことと作ること

附属図書館運営委員

澤 崎 久 和

さわざき・ひさかず

中学・高校の国語の時間に短歌や俳句を作ったことはあっても、漢詩を作ったことがある人は希でしょう。毎月刊行される歌誌・俳誌、歌集・句集は多いけれど、漢詩の雑誌や詩集はめったに目にしません。漢詩は本家中国においても、日本における短歌・俳句ほどには作られていないようです。共に古代から同じ詩形式を保ちつつ今なお読まれている詩歌でありながら、こと創作に関しては両者にこのような差がある理由は、なにより使用することばにあると思われます。

今日、短歌や俳句は日常使用されることばを自在に用いることができますが、漢詩の創作では現代語は用いず、原則として古典漢語（つまり漢文）を用います。和歌は古くは和語のみで綴られていましたが、明治以降漢語と外来語を取り入れて語種を増やし、さらにくだけた口語をも取り入れることによって表現領域を拡大し、「この味がいいね」と君が言ったから七月六日はサラダ記念日（俵万智『サラダ記念日』）に代表されるようなベストセラーを生み出すまでに至りました。漢詩はこのようなことばの面での転換を志向することはなかったのです。

そのかわり漢詩は古典漢語という、時代や地域による変化のきわめて緩やかなことばを用いることによって、作詩上の規則を心得さえすれば誰にでも作ることができる表現形式

を維持してきました。現に明治中頃までの日本では、そのようにして多くの漢詩が創作されてきたのです。大岡信氏はフランスにおける日本古典詩歌の講義の中で、十九世紀の末までは日本のどの階層の人々にとってもっとも重要な詩型は漢詩だった、と指摘しています（『日本の詩歌 その骨組みと素肌』154頁、岩波現代文庫、2005）。

一声孤月下 一声 孤月の下
啼血不堪聞 啼血 聞くに堪へず
半夜空欹枕 半夜 空しく枕を欹つ
古郷万里雲 古郷 万里の雲

これは「子規を聞く」

と題する絶句で、作者は明治の短歌・俳句の革新者であった正岡子規。その子規が数え年十二にして初めて作ったのが、この詩だそうです。万里故郷を離れて、旅寝の空に



日本の詩歌

ホトトギスの悲しげな鳴き声を聞く。とても十二歳の少年が自分の境遇をうたったものとは思えません。それも道理で、この詩は当時刊行されていた作詩参考書に掲載される二字や三字の語彙を巧みに組み合わせて作られたものなのです。このことは全国漢文教育学会での坪内稔典氏の講演「漢詩少年の未来—正岡子規の場合—」で知ったのですが、詳しく

は加藤国安著『漢詩人子規—俳句開眼の土壌』



漢詩人子規

(研文出版, 2006) をご覧下さい。この詩が著者の興味深い新説とともに取り上げられています。

このように、漢詩は長い間にわたって古典語の語彙と文法を用いてきたかわりに、それさえ習得

すれば誰でも、たとえ十二歳の少年にでも、一定の形を備えた作品を作ることができるという性質を持っています。近代人が考えるような、「自己」の思いをうたわなければ詩にならないわけではありません。むしろ、子規少年もいつまでも万里他郷の旅枕とうたっているわけにはいきませんから、徐々に虎の巻を離れて自分自身の切実な感情や思索を表現するようになっていきました。そのことがまた後の子規の俳句や短歌と深い関係を持つことについては、先の加藤氏の本に詳しく説かれる通りです。

近年、漢詩を作るための本が相次いで出版されています。石川忠久著『漢詩を作る』(大修館書店, 1998) は唐詩を例に作詩上の約束事を懇切に説明したうえで、著者が主催する漢詩講座の生徒の実作を紙上添削しており、詩を作ろうとする人には大変役立ちます。漢詩の要である対句についての解説も



漢詩を作る

豊富です。現在ではネット上に漢詩創作のための HP が多数開設されていますが、まずはこのような本を一冊手元において熟読することでしょう。あわせて、先人の詩を数多く読むこと。唐詩・宋詩は一

番の参考書です。以下にすぐれた唐詩の訳注書二点を挙げておきます。

松浦友久・植木久行編訳『杜牧詩選』(岩波文庫, 2004)。杜牧は日本でも親しまれてきた詩人の一人。訳者による的確な語釈が有益で、新たに教えられた箇所にも朱線を引いていくと、どの頁も赤くなってしまうほどです。以前ある先生に、注釈は「読んで得をした」と人に思わせないといけないと教えられたことがありますが、この本はまさに読んで得する一冊です。



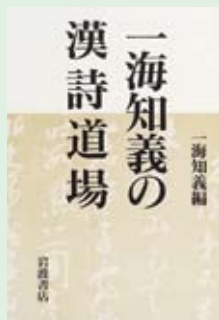
杜牧詩選

川合康三選訳『李商隱詩選』(岩波文庫, 2008)。漢詩は感覚が古いと思いついでいる人は是非一読を。秘められた恋愛、悲哀に満ちた人生が、繊細にまた犀利にうたわれており、ことばが生み出す夢幻的な世界にたちまち魅了されます。巻末や一首末尾の解説はしばしば読者をハッとさせ、詩というものについて深く考えさせてくれます。



李商隱詩選

ところで、漢詩を一人でこつこつ読んでいくのはなかなか根気のいるものです。そんな人には、一海知義編『一海知義の漢詩道場』(岩波書店, 2004)、同『統一海知義の漢詩道場』(同, 2008) がお勧めです。短歌道場、俳句道場は自作の歌や句の出来を競うものですが、本書の漢詩道場は南宋の詩人陸游^{りくゆう}の詩の読みを競って深めるもの。読書会でのやりとりをそのまま活字にした例は、本書以外に知りません。書名に「道場」とあるわけは、この読



一海知義の漢詩道場



統一海知義の漢詩道

書会が毎回発表担当の門弟たちが師範に向かって力の限り打ち込んでいく場であるため、関西弁の一海師範と門弟たちとの気迫のこもったやりとりをワクワクしながら読んでいくうちに、漢詩を読むときの大事なポイントが少しずつ分かってきます。

「野廻羊牛下（野廻^{はる}かにして羊牛^{ようぎゅうくだ}下る）」（『続』150頁）という一句の「羊牛」について、牛と羊を並べるとき普通は「牛羊」と言うのに、なぜ陸游だけが、それも六十八歳以降の晩年になって「羊牛」と言い出したのか、という門弟が発見した一見ささいだけれどもきわめてミステリアスな事実について、師範が陸游と朱熹との交遊を手がかりに鮮やかに謎解きする場面。朱熹は儒学の大家、朱子のことで、「羊牛」というわずか二文字が、当時の新しい学問の動向と結びつけて語られた瞬間の、門弟たちの驚きの声とその後のざわめきが聞こえてくるかのようです（実際にも「一同 エーッ」「一同 ザワザワ」と書いてあるのですが）。読書会参加者の一人によるあとがきに、「筆者にはひとつだけ残念なことがある。それはついに師範を一本負かすシーンを、載せることができなかったことである。…是非とも今度こそは、その衝撃のシーンをお伝えしたいものである」（『続』271頁）とあります。この気持ち、よく分かります。

漢詩を読むことと作ることとが一人の人間の中で当たり前に循環していた時代は、おそらく戻ってこないでしょう。しかし、今も読むことと作ことは互いにとって大切です。ここに取り上げた本は、この両者の幸福な循環を強く後押ししてくれるに違いありません。

漢詩を読むことと作ることとが一人の人間の中で当たり前に循環していた時代は、おそらく戻ってこないでしょう。しかし、今も読むことと作ことは互いにとって大切です。ここに取り上げた本は、この両者の幸福な循環を強く後押ししてくれるに違いありません。

教養教育と読書

附属図書館運営委員

栗山 勝

くりやま・まさる

大学 University は、教養教育と専門教育を行う場である。専門教育の内容は当然ながら各学部で異なり、各個人の目的により目的を同じくする仲間と共通の認識の下に、専門領域での専門的知識と専門的技^{わざ}を学び訓練する。しかしながら、専門教育のみを行っている、専門領域の仲間しか通じないような専門馬鹿状態になってしまうおそれがあるので、大学

での教育では教養教育と専門教育を並行してバランスよく行うことが必須である。専門教育だけを行っていても、素晴らしい専門家が出来上がるとは絶対に言えないのである。戦後日本では、4年制大学では入学後の2年間を教養課程と称し、充実した内容の教養教育を行っていた。ところが、90年代にほとんどの大学がこれを廃止してしまった。入学し

て2年間を教養教育のような無駄なことに費やしても意味がない、それより入学してすぐから専門教育を行ったほうがいい。そういう考えを財界や産業界から強く要請され、入学1年目から専門教育を行うようになり、最近はこの大学でも教養教育が非常に圧縮されてしまった状態となっている。その結果は散々たるもので、教養課程の廃止から20年もしないうちに、大学生の学力は著しく低下してしまった。

広辞苑によると、教養とは「単なる学殖・多識とはことなり、一定の文化理想を体得し、それによって個人が身につけた創造的な理解力や知識」とある。教養とは何なのか。教養教育はいかに在るべきか。歴史的に振り返ってみたい。12世紀に、ヨーロッパで最初の *universitas* と呼ばれる大学ができた。その時、現在の教養教育と言われている「リベラル・アーツ *artes liberales*」というものがその根底に据えられた。すなわち、これは知識人としての最低限の資格保証のようなものであった。当初、リベラル・アーツには2つのカテゴリーがあり、ひとつは *trivium* (3科) と呼ばれるものであり、これには文法、論理、修辞学が含まれ、知識人である限り誰もが必ずマスターしなければならない科目であり、いわば円滑なコミュニケーションを体得するための技術学科の様なものと推測される。もうひとつのカテゴリーが *quadrivium* (4科) と呼ばれるもので、これには天文学、算術、幾何学、音楽が含まれていた。人間が知識人の立場で自然をアプローチしようとしたとき、身に備えておかなければならないアーツすなわち技といえるものである。これが西洋での一般教養の原型である。一方、東洋での教養とは何か。内田樹氏によると、これは孔子の

いう君子の六芸がこれにあたるという。すなわち、六芸とは礼・楽・射・御・書・数であり、礼は儒教における祭礼、楽は音楽、射は弓術、御は馬術、書と数は読み書きそろばんである。現在の教養



街場の教育論

教育には書と数のみが残され、あとの四芸は現在の教養教育からは排除されている。この排除された四芸の特徴は何かというと、数値化の難しい芸であり、全て自己と非自己あるいは何だか掴みどころのないものとのコミュニケーションの訓練を意味するものではないかと内田氏は解釈している。このように西洋的教養にも東洋的教養にも、人間が広く円滑にコミュニケーションを持つための、知識人としての基本的知識と技能が教養であるという考えが、根底にあったようである。ならば、こういう教養といえる学科や芸の習得により何が涵養されるのであろうか。村上陽一郎氏によると、教養の原点となるものはモラルであると言う。教養という言葉の持っているぎりぎりのものは、人間としてのモラルである。自分の中にしっかりした規矩(規はコンパス、矩はものさし)を持っていて、その枠の中からはみ出さないという生き方のできる人、そういう人こそが、最も原理的意味で教養のある人といえるのではないかというのである。また、教養という言葉はドイツ語では *Bildung* といい、積み重ね形成するものという意味がある。教養ある人は人間同士のみならず多くのものとのコミュ



やりなおし教養講座

ニケーションを通じて、確固たる自分形成を構築しており、自分の信じることは他から押し流されることなく主張できる人のことを言うのである。

日本の江戸時代には庶民は寺子屋に通い、読み書きそろばんと儒教的礼儀を学んでいた。これはまさに基礎的な教養教育であり、寺小屋は庶民が受けることができる立派な教育機関であった。また武士の世界は倫理規範ともいえるすばらしい武士道に基づき教育されており、その結果江戸時代の日本社会は世界一の識字率と倫理観を備えた教養豊かな教育大国であったといえる。明治維新以後は、全国で共通の教科書による教育制度が取り入れられ、近代工業社会に役立つ人間を作ることを目的として、西洋文化を積極的に取り入れた模倣の時代であった。欧米の先進的文明国に追いつけ追い越せを国家的目標とした明治日本は、近代的教育制度の確立と拡大を重視したが、当初は試行錯誤の繰り返しであった。しかし、明治の世にはまだ武士道を精神的な拠りどころとして生きた多数のリーダー達があり、彼らの献身的努力と指導で、教育立国路線と呼べる中軸としての学制が確立された。そのひとつが明治の中期から創設された旧制高校制度であり、大正時代は旧制高校を中心に教養主義が栄えた華の時代であった。これ



旧制高校物語

は、日本教育史上で最も成功した教養教育システムではないかと思われる。戦後になり、GHQが日本に入り、まず実行したことは、マルクス主義と足並みをそろえた教養主義の温床である旧制高校制度を廃止したこと

である。そして戦後の日本にアメリカの教育制度を即座に取り入れたが、実は一般教養の内容はかなり不完全、不十分なものであった。戦後の一時期、大学人を通じて教養主義が大衆化されたとい



教養主義の没落

う実績は歴史的価値に値する、しかし知的成熟を身につける教育システムが非常に不完全であったため、教養主義は目に見えて衰退し、大学からも社会からも没落してしまい今日に至っている。

私の所属するのは医学部の臨床の学科である。医学部は将来の医師を養成する学部であり、確固たる人間形成ができ、豊かで柔軟な感情と倫理観を持ち合わせ、人間学を理解できる素養を身に付けた医師を作り上げることを目的とする学部である。そのためには、特に幅広く深遠なる教養をつけることが最も重要であると考えられる。しかし現行の医学部のカリキュラムの中では、教養教育は時間的にも不十分であり、十分な教養教育がなされているとはいえない。また一方、専門教育で学ぶべき量も膨大に増加しており、これ以上の時間を教養教育に割くことが難しいのもまた現実である。将来の医学教育を改良改善していくためには、医学の教育制度そのものを変えていくことしかないのではなかろうか。そこで提案されているのがアメリカ・カナダ型のメディカルスクールの導入である。医学部以外の教養教育の充実した4年制大学、特にリベラル・アーツ・カレッジを卒業し一定の学科を習得した者を医学部の入学資格条件として、4年制のメディカルスクールで医学の専門教育を行うという方法である。オース

トラリアでは、すでに6年制大学の半数が4年制のメディカルスクールに変更しているし、お隣の韓国でもメディカルスクールに全面的に移行しつつある。日本でも最近の医療崩壊、医師不足の社会情勢ともあいまって、現在このメディカルスクール構想が注目され、現実可能のものとして議論されている。実現に向かって大いに期待したい。

知情意が円滑に発達し、人間的成熟と知的成熟を合わせ持つ学生を育成することは、大学における教育義務であるが、生涯にわたっての継続した学習習慣を身につけさせることもまた重要である。これには学生時代に読書の量を多くして、読書の習慣を付けさせ、いわゆる読書力の向上を図ることが極めて重要であると思われる。我々の内科には数週間毎にポリクリグループの学生が、臨床実習のためにローテイトしてくる。学生に専門書以外の読書の状況を聞くと、年間数冊～10冊前後しか読まない。入学以後の5年間でも、読書量は読んだ人でもせいぜい30冊程度であり、その量の少なさに驚く。読んでいる本の内容もエンターテイメント系の娯楽小説が主であり、純文学は読まないし、哲学書などはもう眼中の外である。大学生にとって本とは、読んでも読まなくてもいいものではなく、読むべきもの、読まねばならないものなのであるが、知的刺激を求める大学生は減少し、専門書以外の本が読まれなくなっている。近年、大学生にとって読書は減少の一途である。理由は複合的に考えられる。ひとつには現在の多くの大学生は試験に追われ、専門書の勉強で一杯であり時間的に余裕がない事、しかも自分が何もしなくても受動的に楽しめる刺激、たとえばテレビ、ビデオ、携帯電話、インターネットなどが多くなりすぎた事、子供の時から

家庭での読書を中心とした活字教育が不十分である事などが大きな要因として考えられる。大学生として一般的にこなすべき読書量はどれくらいだろうか。斉藤孝氏は著書の中で、大学生生活4年間で文庫本100冊、新



読書力

書本50冊が基準であろうと述べている。読書をすると脳生理学的にあるいは神経放射線学的に、脳の多くの部位が活性化されることが明らかにされ、多面的に相乗的にいい効果が現れる事は明らかである。学生時代には、多くのジャンルの本を読んで脳を活性化してもらいたいものである。若い柔軟な頭脳を持つ大学生には難解な本と格闘してほしい、名作と言われる純文学に親しんでほしい、魂を揺さぶられ感情を締め付けられるような本に涙してほしい、未知の物に初めて触れた時のキラキラした感動と鳥肌が立つような感激を本で味わってほしい。学生時代の精神的成長期にはこうした読書を通じて多くを経験することが、人間性豊かな社会人として成長してゆくのだと思われる。現行の大学カリキュラムでは教養教育の時間は不十分であり、教養教育を補完する意味でも、大学の教官は是非とも学生に読書力が向上するように指導していただきたい。

この項は、推薦の本を紹介するのが本来の目的である。上記に述べてきた内容に関する参考とした本を末尾に記載するが、これらの本は特に推薦するという意味で挙げた図書ではない。しかしこれらの本の中には、大学生として読むべき、読まねばならない本が多数紹介されているので、本の指南書として活用

してほしい。推薦する著者を一人紹介したい。
内田樹氏。氏は神戸女学院大学の文学部の教授であるが、武道家でもあり、著書には武道論、身体論、映画論、コミュニケーション論、ユダヤ論、アメリカ論、中国論、教育論など多岐に亘るが、どれも面白い。著書を読むと、陳腐な言い方だが、目からうろこと言うにぴったりの斬新な視点から物事を見ており、論理思考のトレーニングにもなる。最後に、医学史の関係からの本を推薦したい。わが医学部ではこの20年間医学史の教育がなされなかった。医学教育のカリキュラムを補強する意味でも、医学生に対しての教養教育の一環としても、医学史は最適ではないだろうか、2年前から準備し私も日本の医学史を4コマ担当している。推薦する本は多数あるが、興

味のある方は、医学部の医学科授業要項シラバスの医学概論（医学史）に挙げるリストを見ていただくとして、ここではその中から3冊紹介する。「福翁自伝（福澤諭吉、岩波文庫）」、「蘭学事始（杉田玄白、講談社学術文庫）」あるいは「すらすら読める蘭学事始（酒井シヅ、講談社）」、「胡蝶の夢（司馬遼太郎、新潮文庫）」。
前置きの文があまりにも長すぎたため、紙面の都合で推薦理由や解説は抜きにする。

《参考書》

やりなおし教養講座	村上陽一郎	NTT出版
街場の教育論	内田 樹	ミシマ社
読書力	斉藤 孝	岩波新書
教養主義の没落。変わりゆくエリート学生文化	竹内 洋	中公新書
旧制高校物語	秦 郁彦	文春新書



福翁自伝



蘭学事始



すらすら読める蘭学事始



胡蝶の夢

「さなぎ」としての過渡期、 そこに新しい未来の息吹が

附属図書館運営委員

寺 田 聡

てらだ・さとし

総合図書館（文京キャンパス）にとって、2009年は新しい時代を迎える記念すべき年です。改築工事によって近代的な図書館へと生まれ変わり、学生さんを始め、利用者の皆

さんにより使いやすく、役に立つ図書館へとなってくれることでしょう。図書館の改築にあたっては、図書館の職員を中心に、多数の教員や建築担当をはじめとする職員の方々が

何度も何度も会議を開き、活発な議論が行われました。実際に新生なった図書館が、どれだけ役に立つものであるかは、この計画段階でどれだけしっかりと取り組んだかが大きく影響することでしょう。

表に見えない、いわゆる「さなぎ」段階での取組が、それだけ大切であるといえます。学生の皆さんにとっても、学生時代をどう生きるかが、この先の人生をある程度決定します。

大学の教員としては、学生さんには、やはり実り豊かで、幸福な人生を送ってほしいものです。同時に、学生生活も充実したものであってほしい。そういった気持ちから、いくつか、今読んで楽しく、そして将来にも良い影響を与えそうな書物を紹介させていただきます。

最近読んだ本の中で、びっくりするくらいに面白く、一瞬のうちに読んでしまったものに、「**護られし者 (ピーター・V・ブレット)**」

があります。ハヤカワ文庫から3冊で出されたものです。いわゆるファンタジーに属するもので、状況設定がなかなか恐ろしいものでした。夜になると魔物が地下からわいてきて、人間を殺戮して



護られし者

回る、人々は魔物から護られる「護符」の内側で、おどおどしながら、息をひそめるように細々と生きている。当然、宿泊を伴うような、長距離の旅行は困難で、「配達士」という特別な人間だけが交易や手紙のやり取りに関わっているだけで、一般の人たちは旅をすることなどほとんどありません。主人公のひとり、アーレンは魔物に母親を殺されます。その時、側で見ていただけて助けようとしないうちに

愛想を尽かし、生まれ育った小さな村落を飛び出すのです。そしてなんとか都市にいたり、そこで古の資料の残された図書館で、魔物を倒すことのできる護符の存在を知ります。古代遺跡からさまざまな護符を集め、それらを用いて魔物と対決していくのです。暗さの中に、目的意識をもって生き抜く若者のたくましさ、力強さと、不屈の精神に感動しました。

同じように、たくましい生き様を感じさせられたファンタジーに、「**チャリオンの影 (ロイズ・マクマスター・ビジョルド)**」があります。

創元推理文庫から上下2冊で刊行されており、こちらは「捕虜」となって、ぼろぼろになった人生の敗北者がみごとに復活していき、活躍する様子が描かれております。



チャリオンの影

短編集でありながら、全体で一つの世界を形成している小説というのは、一編ずつは気楽に読めるものでありながら、全体を読み終わった時にえられる満足感もなかなかです。そして、多様な角度から一つのことを眺める、立体感に富んだものになります。たとえば、「**雪沼とその周辺 (堀江敏幸)**」は7つの短編から構成されていて、田舎の小さな町で暮らす人々の何気ない人生が浮かび上がってくるものです。新潮文庫で、わずか200ページにも満たないものですから、短編一つ一つは30分程度で読むことができます。ぜひ読んでみてください。



雪沼とその周辺

もう一つ、短編集でおすすめは、「**第三の時効**

（横山秀夫）」です。F 県警捜査第一課が取り



第三の時効

組んだ事件を紹介するもので、6 つの短編が納められています。アクの強い刑事の意地がぶつかり合い、さらには担当の新聞記者まで絡みます。そして犯人と被害者の葛藤がまた興味深いものです。たとえば、表題作である第三の時効は、展開が二転三転、どうなるのだろう、というワクワク感と、結末が判明した時点での感慨は深いものです。推理小説の醍醐味を味わわせてくれる秀逸な作品ですね。

長編にチャレンジするのでしたら、文春文庫の「坂の上の雲（司馬遼太郎）」はいかがで



坂の上の雲

しょうか。明治期の、四国松山出身の 3 人の有名人を中心に、明治の日本がいきいきと描かれています。一人は俳人の正岡子規、後の二人は、日露戦争で活躍した軍人の秋山兄弟です。全部で 8 冊からなり、かなり読み応えがありますよ。今、この本をもとに NHK がドラマ化を進めているとか、一歩流行の先をいってみませんか。

国際化の時代です、英語で小説を読んでもというのはいかがでしょう。チャレンジの甲斐がありますし、英語に対する自信も生まれるのではないのでしょうか。もちろん、そのままの原書は結構大変ですから、ペンギン・グレイデッド・リーダーズがおすすめです。元々の作品を書き直して皆さんの知っている単語だけで書かれていたりしています。そして本当の初心者用から、かなりのレベルまで、

6 段階にレベル分けされているため、読者のレベルにあわせたものを選べば、辞書をあまり使わなくても読むことができます。そして、薄い本が多いので、初めての挑戦に良いのではないのでしょうか。いろいろな作品が出版されていますが、私のおすすめは、「シェークスピアの 3 つの悲劇」です。ロミオとジュリエット、リア王、マクベスという著名な 3 作品が納められています。桐原書店から、和訳とさらに朗読の CD-ROM とのセットで販売されています。英語の響きを学ぶことできてお得ではないでしょうか。ぜひ、トライしてみてください。



シェークスピアの 3 つの悲劇

大学での読書は、どうしても専門書が中心と思われがちです。しかしながら、多様な教養を身につけるというのも、大学生活で大切なことです。このような読書を通じて、皆さんの人生がより豊かになることを願っております。

電子ジャーナルの今後

電子情報係長 水 上 満 雄

みずかみ・みつお



電子ジャーナルは、今や教育・研究において重要な学術情報源となっていることは誰もが認めるところであります。この電子ジャーナルを購読するために本学を含め各大学は多額の資金の拠出を余儀なくされています。しかし、電子ジャーナルは5%以上の値上げが毎年行われ、継続維持が困難な状況に陥ってきています。ただ、最近の円高のお陰で値上げをある程度吸収できているのですが、反対に円安に移行した場合、為替が5%の円安になったら単純に考えても10%の値上がりとなってしまいます。運営交付金が毎年減らされているなかで、電子ジャーナルをどう運用するかが今後の大きな課題となっています。そこで、本学の電子ジャーナルのこれまでの経過と去年（2008年3月）実施した電子ジャーナルアンケートの結果を分析し、今後の方策等について考察してみます。

電子ジャーナルの導入経過

本学が電子ジャーナルを本格的に導入し始めたのは、旧福井大学と旧福井医科大学が統合する前の平成14年度からです。文部省（現在の文部科学省）から電子ジャーナル購読のための予算処置が行われ、旧福井大学は、Elsevier, Springer, Blackwellを導入、旧福井医科大学では、Elsevier, Springer, Wiley, ProQuest-HMC, AcademicPress（後にElsevierのScienceDirectに吸収）を導入。その後両大学の平成15年の統合を経て、現在ではBlackwell, Wileyの中止はあったものの、Elsevier, Springer, ACS, ProQuest-ARL, ProQuest-HMC, IEEE-CSDL, ACM, APS, Natureの9コレクションの

電子ジャーナルを全学共通経費で契約しています。医学部、工学部の経費で契約しているものも含めれば、トータル16コレクション（種）の電子ジャーナルを契約しており、その総額は7千万円以上に及びます。電子ジャーナル購読費は当初学長裁量経費に頼ってきましたが、研究費削減から電子ジャーナル関連雑誌の中止が相次ぎ、その価格が電子ジャーナル価格に上積みされて価格が一気に高騰し、平成16年度からは学内のコンセンサスを得て電子ジャーナルの多くは全学共通経費で負担することになりました。

電子ジャーナルアンケートの実施

教員の電子ジャーナルの利用状況や電子ジャーナルに対する理解度や考え方を把握して、その結果を今後の電子ジャーナルの運用方針に生かすことを目的として、本学の全教員を対象に電子ジャーナルのアンケートを行いました。対象者574名に対して回答者は146名で、全体として25.4%の回答率でありましたが、その回答について分析してみます。

「本学が導入している電子ジャーナルで利用している（必要度の高い）コレクションは？」という問いに対して、第1位～第3位まで挙げたコレクションを対象に重み付けを行って集計した結果、図1の通りとなって、Elsevier, Springer, Natureの順番で利用度が高いことがわかりました。Elsevierは第1位に挙げた教員は圧倒的に多くなっており、次に続くSpringer, Natureは第2位、第3位で挙げた教員が多くありました。ElsevierだけでなくSpringer, Natureも必要だという意思表示と考え

られます。また、ProQuest-ARL は唯一人文系のタイトルを多く収録したコレクションでそれなりの利用度を示しています。その他の電子ジャーナルも、Elsevier, Springer, Nature と比べて数値的には及ばないものの専門分野に特化したコレクションとしては利用度が高いと見て取れます。

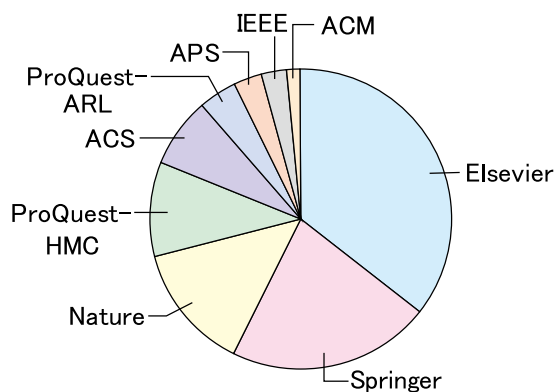


図 1

「電子ジャーナルを利用していない理由は？」という問いには図2のような結果になりました。

上位を占めるのは、現在導入している電子ジャーナルでは不満という意見であります。導入しきれてない各分野の電子ジャーナルは多数あるため、当然の結果といえます。利用方法がわからないという意見がありますが、これは、電子ジャーナルが浸透していないことの表れであり、利用講習会や数人を対象とした積極的な講習を頻繁に行っていく必要があると考えられます。

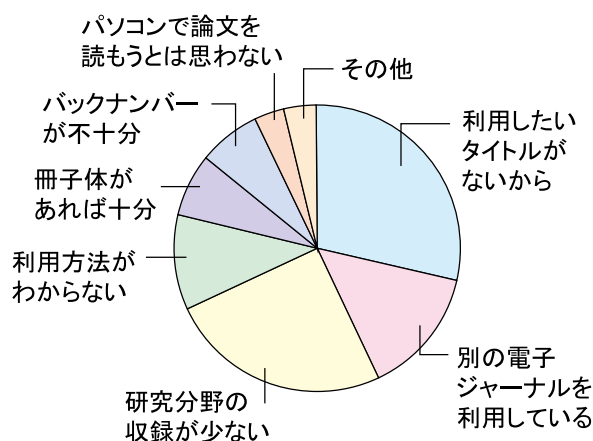


図 2

「電子ジャーナルのメリット、デメリットは？」という問いには、図3のような結果になりました。

電子ジャーナルがこれだけ普及した理由は、ここに挙がっているメリットを見れば一目瞭然でしょう。電子ジャーナルの利用者はこれらのメリットを十分に感じていると思われます。ただ、デメリットである「バックナンバーが残らない」というのは、利用者にとってもわれわれ電子ジャーナルを提供する側としても一番懸念するところであります。継続で購読していけば問題がないことですが、今後の見直し等で購読中止になれば直接的に関わってくる大きな問題であります。

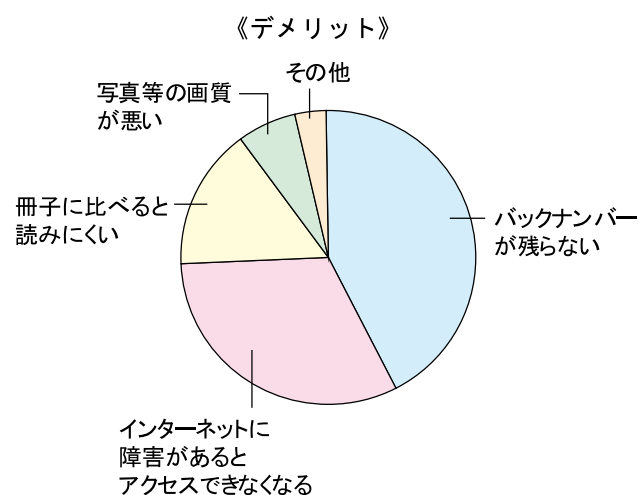
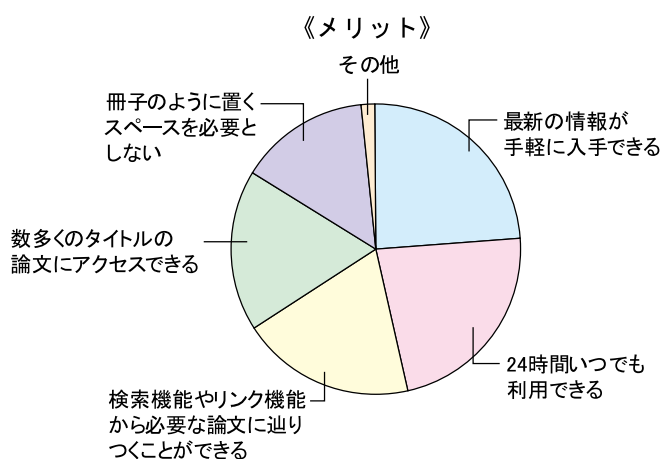


図 3

「電子ジャーナルの毎年の値上がりに対して、今後どのような対策をすべきか？」という問いに対しては、図4のような結果となり、「図書館の図書費等を削減して電子ジャーナルに充てる」が一番多い意見

になりました。しかし、今回のアンケートに回答をくれた教員の多くは電子ジャーナルを利用している教員であります。回答があったのは前述したように全教員 25.4%に過ぎません。回答がもらえなかった残りの教員のうち電子ジャーナルに関心がなく電子ジャーナルを使っていない、必要としていない教員が多いと考えられるため、これがそのまま全教員に当てはまる意見と捉えるわけにはいきません。ただ、少なくとも電子ジャーナルを利用している教員にとって電子ジャーナルは最も重要な情報源と捉えている人が多いと判断することができます。

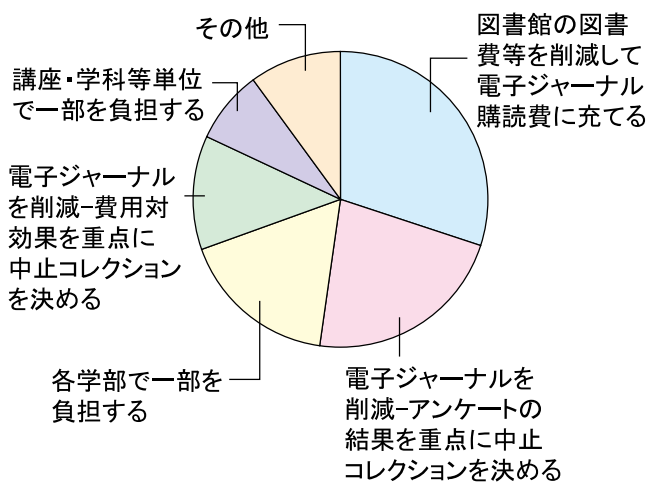


図 4

以上、電子ジャーナルアンケート結果における主なものを抜粋し考察してみました。その他、様々な自由意見が出てきていましたが、電子ジャーナルはこれからの研究活動において必要不可欠なものとして捉えている意見が大半を占めていました。また、電子ジャーナルの値上がりに対する方策を真剣に考えていただいた意見は非常に参考になりました。

※アンケート結果の詳細は附属図書館のホームページからご覧下さい。

<http://www.flib.fukui-u.ac.jp/ej/index.html>

(閲覧は学内限定)

今後の方策

アンケート結果からは、教員の電子ジャーナルに対する詳細な意見を知ることができました。しかし、電子ジャーナルの見直しという点では、現在購読しているどの電子ジャーナルも必要と捉えていて、どのコレクションを中止にするというようなことはアンケート結果からだけでは判断ができないことわかりました。

費用対効果という電子ジャーナルの利用効果を計る指標があります。電子ジャーナルの契約金額とアクセス(本文閲覧・ダウンロード)数から、1アクセスに対してどれだけの費用がかかるかというものであり、例えば、年間購読費1千万円のコレクションが、1年間で2万件のアクセスがあった場合、費用対効果は500(円/件)ということになります。ILL(文献複写依頼)で学外から文献を取り寄せた場合の1文献当たりの平均的費用と電子ジャーナルの費用対効果を比較して、電子ジャーナルの費用対効果がILLで文献を取り寄せる費用より高かったらそのコレクションを導入するメリットがないと判断する方法が考えられます。ただ、ILLには人件費等も関わってきますし、何よりも電子ジャーナルは、最新の情報がいつでもスピーディに入手できることや、電子ジャーナルならではの検索機能等、ILLの費用は参考価格にはなりますが単純比較はできないことになります。しかし、電子ジャーナルの値上げに歯止めがかからない以上、導入経費の確保に尽力する一方で、費用対効果の基準となる価格を設定していき、費用対効果がその基準価格より高いコレクションは中止にするといった思い切った方策を今後取っていかざるを得ないといえます。

お知らせ

総合図書館が6月にリニューアルオープンします

** 新しい図書館はこんな図書館です。 **

【基本コンセプト】

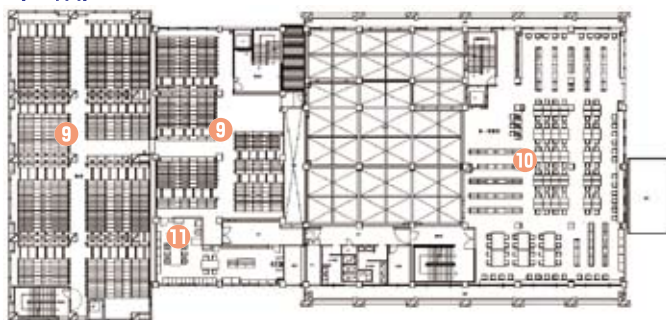
- ・ 何時でも何処からでも利用できる**次世代**図書館
- ・ 知を求めて**集う**図書館
- ・ 知識と文化の集大成である資料を次世代に**継承**する図書館

特 徴

- 平日は朝 7:00 ~ 9:00, 土曜・日曜・休日は 9:00 ~ 13:00 まで無人開館します。
 - 日曜・休日開館します。
 - 施設面では次のようなことが新しくなりました。(下のレイアウトの番号を参照してください。)
- ④ ラウンジ…………… 集い、憩いの場として、図書館の中で唯一飲食が OK の場所です。
 - ⑦ マルチメディアコーナー… 多様なメディアに対応したパソコン 10 台を設置し、また、自由に学習するスペースと 3 台の個人ブースを設置しました。
 - ⑥ 展示ホール…………… 所蔵資料等を紹介・広報できるスペースを設置しました。
 - ⑧ グループ学習室…………… 少人数でグループ学習ができる部屋を 3 室設置しました。
 - ⑩・⑫ 閲覧室 …………… 明るい窓側にはカウンター席を設け、より多くの人たちが閲覧室を利用できるよう工夫しました。
 - ⑬ 研修室…………… 多人数の研修だけでなく、ノートパソコンを使用でき（貸出用ノートパソコンはインターネットも使えます）、学習スペースとしても使える部屋にしました。
 - ⑨ 書庫…………… 増設され、蔵書を保存するスペースが増えました。

新総合図書館レイアウト

〈2 階〉



〈3 階〉



〈1 階〉



- | | |
|---------------|---------|
| ① 正面玄関 | ⑨ 書庫 |
| ② 受付カウンター | ⑩ 第一閲覧室 |
| ③ 事務室 | ⑪ 特殊資料室 |
| ④ ラウンジ | ⑫ 第二閲覧室 |
| ⑤ 郷土資料室 | ⑬ 研修室 |
| ⑥ 展示ホール | ⑭ 大学資料室 |
| ⑦ マルチメディアコーナー | ⑮ 貴重書室 |
| ⑧ グループ学習室 | |

【新開館時間】

平 日	7:00	9:00	17:00	20:00	
土 曜 日			13:00	16:00	
日 曜 日・休 日					

■ 無人開館
■ 有人開館

※ 8 月の開館時間は、平日のみ 17 時までとなります。(土日・休日は閉館)

※ 総合図書館に入館するには「利用者カード」(身分証明書証または学生証)が必要となりますのでご注意ください。

◆ 総合図書館リニューアルオープン記念展示 ◆

「郷土の歌人 山川登美子」展

場 所 総合図書館展示ホール

日 時 2009 年 5 月 29 日(金)～ 6 月 18 日(木) 9:00～17:00

このたび総合図書館の耐震改修工事に伴い、新たに「展示ホール」が設置されました。その第 1 回記念展示として、当館所蔵の山川登美子関連資料を広く一般公開し、郷土の生んだ歌人山川登美子の足跡を紹介します。

山川登美子は、与謝野鉄幹が主催する「明星」の同人として、鉄幹、鳳（与謝野）晶子らとともに、明治歌壇刷新の一翼を担いました。しかし、従来、山川登美子といえば、親の決めた結婚によって恋をあきらめ、果ては胸を患い失意の中に亡くなった、という悲しいイメージを持たれがちでした。

今回の展示では、海と山とに囲まれた歴史ある文化を持つ町小浜、その格式高い武家の出の登美子の、短い生涯ながらも「自我独創の詩」を生み出すことに苦しみ、そして楽しんだ、「我儘者」の歌人としての側面を浮かび上がらせることを意図しています。初めて鉄幹らと催した句会を記念する署名入り扇や、日常の断片、或いは習作などを書き留めたノート類などの貴重資料はもとよりのこと、『恋衣』、『明星』掲載歌を始め、習作、生前未発表作をも展示し、実作者登美子の全生涯を展望するものです。みなさまの多数のご来場をお待ちいたします。

【講演会】

日 時 2009 年 5 月 30 日(土)
13:30～15:00

場 所 総合研究棟 I 13 階会議室

講 師 越野 格(教育地域科学部教授)

演 題 山川登美子の詩(うた)－現代語訳を試みて－





福井大学総合図書館

6.1 (Mon) *リニューアル* **OPEN**

★ 5月28日(木)

オープニングセレモニー

★ 5月29日(金)～6月18日(木)

リニューアルオープン記念展示

「郷土の歌人 山川登美子」展

★ 5月30日(土)

講演会 13:30～15:00

「山川登美子の詩－現代語訳を試みて－」

★ 5月29日(金)～31日(日)

大学祭 総合図書館館内ツアー

★ 6月 1日(月)

総合図書館開館